

サ時絵 室瀬 和夫

— 時を超える美 —



KAZUMI MUROSE



2017年制作・HD作品／カラー／39分

伝統文化シネマとは

人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗芸能・行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。このような優れた無形の伝統文化を、「伝統工芸の名匠」「伝統芸能の粋」「民俗芸能の心」シリーズとして記録映画を制作しています。

人間国宝の卓越したわざ、各地域に

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル
TEL 03 3494 7652/FAX 03 3494 7597 <http://www.polaculture.or.jp>

室瀬 和美 むろせ かずみ

1950年東京生まれ。漆芸家だった父・春二の影響を受け、同じ道を志す。人間国宝の故・松田権六、故・田口善国両氏に師事、東京藝術大学大学院修了。在学中より開始した創作活動と共に文化財保存活動も行い、漆の美を積極的に国内外で発信する。2008年に重要無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝）認定。同年、紫綬褒章受章。日本伝統工芸展にて東京都知事賞など受賞多数。現在、公益社団法人日本工芸会の副理事長も務める。

企画 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団
製作 株式会社毎日映画社
監修 白石 和己(工芸評論家)

●製作スタッフ

プロデューサー 橋本 淳
監督 柿沼 智史
撮影 小金澤輝明
中村 義一
照明 齋藤 直樹
録音 佐多 恵之
助監督 古賀 志信
構成 竹内 弘幸
柿沼 智史
作曲 山崎 茂之
EED 堀 美樹子
MA 門倉 徹
(スタジオ・エコー)

題字 矢萩 春恵

ナレーション 檀 ふみ

●制作協力

目白漆芸文化財研究所
浄法寺町
工藤竹夫
銀座あさみ
ヴィクトリア&アルバート博物館
公益財団法人東芝国際交流財団
独立行政法人国際交流基金
井の頭自然文化園
松田邦夫
金沢ふるさと偉人館
三嶋大社
田口義明
宮入小左衛門行平
掛川市
掛川市立横須賀小学校
MOA美術館
水上隆志
木下幹久
永田智世
REUGE社

監修の言葉

工芸評論家 白石 和己

きらめきながら、舞うように落ちる金粉。粉筒を指先ではじくりズミカルな音。やさしく器面に蒔かれる金の粉。映像は一般には見ることでできない、蒔絵の技法を詳しく、また金粉の蒔かれる瞬間を、鮮やかに美しく映し出す。

重要無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝）の室瀬和美さんは、伝統的な蒔絵技術によって、現代の美術として表現している漆芸作家である。この映画は、室瀬さんの活動を完成作『蒔絵螺鈿丸篋・秋奏』の制作工程を縦軸にして、室瀬さんが創作の根底に置いている「ひとに学ぶ」「ものに学ぶ」「自然に学ぶ」という基本姿勢を、具体的作業を通して描き出している。

この映画の見所はいくつもあると思うが、公園でのリスの写生から、それを基にしてリズム感あふれるデザインを生み出すところ。三島大社の『梅蒔絵手箱』の復元模造で見出した、鈿粉の表現を現代に生かそうと、自ら鈿粉を作る作業および、鈿粉をはじめ様々な種類の金粉と組み合わせることで得られる奥深く複雑な効果。チタンを初めて平文に使用するというチャレンジ精神と鉛や螺鈿との組み合わせによる技術上、表現上の工夫などである。室瀬さんの精細な技術を丹念に、臨場感豊かに描き出して、室瀬芸術の創作の秘密の一端が感じられるだろう。

映画では、室瀬さんの制作工程を追うとともに、日本の伝統文化の粋ともいえる漆芸を、広く海外に発信するため、ロンドンでの古い漆器の調査修復指導、スペインでの講演活動の様子も紹介している。また、国内での普及活動の一つ、静岡県掛川市での子供たちを対象とした蒔絵の体験教室の様子や、工房の後継者養成なども描かれていて、創作活動だけでなく普及活動、後継者養成、文化財保存など多方面にわたる室瀬さんの精力的な活動もよくわかる内容となっている。



7. 研ぎ出し



4. 螺鈿の形に彫る



1. 作品制作のためのスケッチをする



8. 付描



5. 粉蒔き



2. 下図



9. 完成作品 蒔絵螺鈿丸篋「秋奏」



6. 塗り込み



3. 平文を貼る

映画内容

平成20年、重要無形文化財「蒔絵」保持者に認定された室瀬和美さん。室瀬さんは漆芸家であった父・春二と同じ道を志し、近代漆芸を代表する作家・松田権六、田口善国らに師に、漆芸の技法や創作姿勢について学びました。映画では、恩師から教えを受けた大切な言葉「ひとに学ぶ」「ものに学ぶ」「自然に学ぶ」を基本にして、新たな素材に挑戦する姿など、作品を制作する過程を縦軸とします。さらに文化財修復を通して古典に学び、その技法・素材を現代の作品に取り入れようとする姿、室瀬さんの創作に対する考え方、国内外に日本の漆の価値を発信・伝承する姿を横軸にしています。こうして現代を生きる漆芸家・室瀬和美さんの創作に挑戦する様子、その心の有りようを丁寧に記録しました。